令和８年度

走潟公民館だより 10月号

「集い・ふれあい・学び」
文責：走潟公民館長　芥川　学

令和8年熊本地震

「走潟公民館は平常通りです」

令和８年７月２８日（火）１６時２７分頃に発生した「令和８年熊本地震」では、多くの方が被災され、死者・負傷者や家屋の損壊等甚大な被害をもたらしました。改めまして、被災された皆様に対してお見舞い申し上げます。

さて、走潟公民館におきましては、建物において多少のひび割れ等が見受けられますが、数日間の休館を経て、平常の事業を実施しております。先日も、地域の皆様のご協力により、第１０回走潟地区児童通学合宿（３泊４日）を実施したところです。参加児童の明るい笑顔や笑い声に接し、日常を取り戻しつつあることを実感したところです。

走潟マルメロ会　活動の様子



こんなに大きいよ



おいしくなーれ

⇦9月１１日（金）４年生と走潟小学校のマルメロの収穫を実施。今年は実も大きくとてもよくできていました。

１０月2日（金）４年生とジャムづくりをしました。実を切り、砂糖と一緒に煮て、鍋でピンク色になるまでしっかりこね、おいしくいただきました。

主催事業だより

第4回青空教室（竹笛を作ろう）9／12土



１２名が参加してくれました。のこの使い方が上手になりました。ウグイスの鳴き方をしっかり練習したので、上手に吹けるようになりました。台と吹くところをくっつけるところが難しかった。切る練習が楽しかった。上手に吹けて嬉しかったの感想が聞かれました。

第3回成人講座（高齢者の健康教室）9／16水



２２名の参加がありました。市包括支援センターの白石恵子さんからは、食事・運動・休養・検診で健

作りの大切さと、日頃から日常生活での、人と人とのつながりを大事にしてお互いに支援が必要となったときに備える、という関係作りが大切だと話されました。

第２回「生涯学習講座：走潟の歴史を語ろうかい」ダイジェスト版（要約）

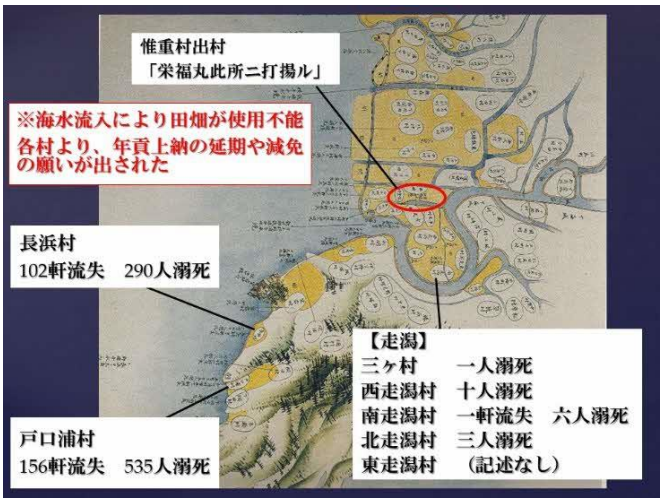
令和８年９月５日（土）に開催した、走潟公民館生涯学習講座「走潟の歴史を語ろうかい」第２回の内容の要約版をお届けします。

テーマ「島原大変、肥後迷惑　―遺された津波の記録―」

江戸時代後期の寛政４（1792）年、島原半島にある雲仙普賢岳の噴火とそれに伴う地震により、眉山が崩れて大量の土砂が有明海に流れ込みました。これにより大規模な津波が発生し、対岸の肥後（現在の熊本県）を襲いました。島原・熊本を合わせて１万５千人あまりの犠牲者が出たこの災害は「島原大変、肥後迷惑」の言葉で今に伝えられています。

津波の被害や教訓、犠牲者への供養などを記した文書や石碑は数多く残っており、今に生きる我々は、これらを通して被害の大きさ・悲惨さを知ることができます。走潟においても、家屋の流失や合計 20 名の「溺死」が記録されており、決して小さくない被害があったことがわかります。

令和８年７月に起きた熊本地震の際、島原にて再び眉山が崩落したニュースが流れました。幸い、これが津波を引き起こすことはありませんでしたが、江戸時代の巨大災害が決して単なる過去のものではなく、目の前で再現し得るものだと痛感させられました。江戸時代の人が石碑などに「千年の後まで」と記しているとおり、この被害の記録を、我々も次世代に語り継いでいく必要があるのではないでしょうか。



絵図に書かれた走潟周辺の被害

文責：芥川博士
（宇土市文化課：走潟公民館生涯学習講座「走潟の歴史を語ろうかい」講師）





≪開催予告≫

１１月７日（土）「絵図と字図で読み解く走潟」午後２時～
１２月１２日（土）「現地研修」午前９時～正午**（変更しました）**

お問合せ先：走潟公民館　℡２３－２８７７　月～土９時～正午